



春の田園風景（青葉区恩田町）

- 地産地消持ち寄り研修会 ●市長要望 ●神奈川県農業委員会大会 ●農業委員会の活動紹介
- 農政活動協力金 ●農業委員紹介 ●横浜市からのお知らせ ●編集後記



## 地産地消持ち寄り研修会を開催しました

南西部農業委員会では、管内でさまざまな農業に取り組んでいる農業委員を中心に生産した農産物を持ち寄り、それをプロの料理人が調理した料理を味わうことで、消費者側から見た農産物の魅力を学ぶ地産地消研修会を昨年11月25日に実施しました。

持ち寄った食材は、野菜、果物、花き、魚まで40種類以上！工夫を凝らした料理に舌鼓を打ちながら、横浜の農業や営農について知見を深めました。

地産地消





## 林市長に要望書を提出 ～平成29年度横浜市農業施策に関する市長要望～

農業委員会連合会は、昨年10月28日に林文子横浜市長を訪問し、平成29年度農業施策に関する要望書を手渡しました。連合会から北村会長、角田副会長ほか4名の理事と監事が出席し、食の安全と安心の確保、農地の保全と有効利用対策、担い手・経営対策、地産地消の推進、資源の有効利用や環境負荷の低減を重視した施策について要望しました。



北村会長は、農地の基盤整備予算を確保し、安心安全な農産物が市民の台所へスムーズに届く施策を講じてほしいと述べられました。

理事の皆さんは、法改正による農業委員会の新たな役割に対する意気込みや、上瀬谷農業専用地区の整備のための予算要望、横浜野菜のブランド化、小学校での食農教育の状況などを市長に伝えました。

林市長は、日頃の農業委員会活動に対して敬意を表し、理事一人ひとりの声に熱心に耳を傾け、「横浜の野菜はとてもおいしい。生産者がいるから私達は食事ができているのであり、農業には可能性がある。要望書をしっかり見て対応していきます。」と締めくくられました。

## 神奈川県農業委員会大会が開催されました

「改正農業委員会法のもと、新制度への適切な移行により、農地利用最適化に向け、農業委員会組織を強化しよう」のほか、6つのスローガンを掲げた平成28年度神奈川県農業委員会大会が、昨年11月10日に海老名市文化会館で開催されました。県内農業委員等552名が出席しました。



大会では「農地の保全と有効利用に関する要望」、「担い手の育成・確保と経営の強化に関する要望」など、合計4つの議題が審議・採択されました。

また、関係機関に対して決議事項の要請活動を行う決議実行運動計画も採択され、この決議の取組の強化と申合せ事項の着実な実践を宣言し、がんばろう三唱で閉会となりました。

## 農業委員会の活動を紹介

中央農業委員会・南西部農業委員会は、昨年11月20・21日に、きた地区JAまつり及びJA横浜飯田支店農業まつりに参加しました。特に2日目は天候にも恵まれ、大勢の人で賑わいました。

横浜ブランド野菜をモチーフにした塗り絵のコーナーでは、ブドウやニンジンなどの塗り絵に子供たちが思い思いの色を塗り、素敵な作品を完成させていました。

また、展示したパネルやチラシに目を留めてくれる人も多く、農業委員会の役割や業務、活動について大勢の皆さんにPRすることができました。



### 神奈川県農業会議の農政活動協力金について

神奈川県農業会議の農政活動協力金（旧賛助会員費）につきましても、平成28年度も多くの皆様に御協力いただき、誠にありがとうございました。

この農政活動協力金は、神奈川県農業会議の農政対策活動に充てられるとともに、横浜市農業委員会の事業にも活用させていただいており、農政に関する制度や施策等の情報を皆様にお伝える「よこはま農委だより」も農政活動協力金により作成しています。

中央農業委員会管内 1,690,100円

南西部農業委員会管内 1,131,600円

# 農業委員紹介

このコーナーでは、全委員を順に御紹介していきます。

凡例 委員会名 氏名 担当地区

## 中央 金子 詔司

神奈川（神奈川区）地区

担当地区はこれまで、主にキャベツ等の大型野菜が多く栽培されてきましたが、近年軟弱野菜に移行する農家も増え、そのため少ない面積で耕作出来るようになりました。また、農地が余り、荒廃農地が増えたり、特区農園へ移行する農地が増えてきました。

特区農園では、無農薬野菜の需要が多く、近接する営農家と十分な話し合いが必要だと思えます。お互いに歩み寄りができるよう協力していきたいと思えます。



## 中央 小川名 重典

都岡（旭区）地区

担当地区内には市民の森があり、夏には蛍が飛び交う古くからの自然が残る緑豊かな田園風景が多くあります。

農業委員になって3期目になりますが、3期とも最年少でした。若手ということもあって、地域から多くの相談を受けます。これからも、地域と事務局とのパイプ役になれるよう努めてまいりたいと思えます。

また今後、私に続いて若手の後継者が育つよう、支援指導をしていきたいと思えます。



## 中央 石渡 紀孝

山内（青葉区・都筑区）地区

担当地区は、都筑区荏田南、荏田東、青葉区あざみ野南、荏田西、荏田北、荏田町の地域です。周りは住宅地になり、耕作するには難しい問題もあります。この様な状況で、水稻、果樹、露地野菜等が作られています。今後、都市農業としていかに農地の維持管理・継続ができるか、いろいろな問題が山積しており、大きな課題があるように思われます。



## 中央 荏原 庸二

新田（港北区・都筑区）地区

私の担当している港北区の高田地区では農用地を中心に露地野菜、花卉、植木等が生産されています。私は8年前に就農して野菜生産を拡大する中で、試行錯誤しながら農業の面白さや難しさを実感しているところです。都市化や農業従事者の高齢化等の環境変化があるなかで、地域の農業発展のため、職責に微力を尽くしてまいります。



## 南西部 内倉 忠勇

港南（港南区）地区

私は港南区野庭町で鉢花の生産をしています。担当する港南地区でも高齢化が進み、後継者不足で悩んでいる農家も見受けられ、これからは遊休農地が増えてくると思えます。

さまざまな課題が山積している中で、安心して農業経営が成り立つよう農地の保全・有効利用対策・担い手の育成に、微力ですが農業委員としてお役にたつよう頑張ります。



## 南西部 坂間 伸

戸塚（戸塚区）地区

私が担当している戸塚地区は早くから開発が進み、農地がとても少なくなっています。そのような中で、都市農業の典型とも言える多品種・少量生産で直売を行っている方々がいらっしゃいます。私も露地野菜・ウメ・カキなどを生産・直売しています。

今後も地域の方々と都市農業を守っていききたいと思えます。



## 南西部 小曲 敏彦

飯田（泉区）地区

飯田地区の中間部を担当しています。地区の西側を流れる境川沿いには、13ヘクタールほどの田園が広がり、秋には黄金色の風景を眺めることができます。

農業委員として行う現地調査では、皆様の畑作りの様子が大変勉強になります。飯田地区では農地の維持が困難になるなど課題もありますが、地域の農業発展のため、頑張っていきたいと思えます。



## 南西部 鈴木 文利

原（瀬谷区）地区

私が担当している原地区は多くが市街化区域であり、農家・農地ともに減少傾向にあります。それでも露地野菜・酪農等に積極的に取り組んでいる農家も多くあり、大変心強く感じています。

農業委員になって2年以上経ちましたが、まだまだ力不足を痛感しております。個々の農家の事情を考慮しつつ、農業の発展に繋がるよう活動できればと思っています。





## 農業振興地域整備計画の素案を公表します

横浜市では横浜農業振興地域整備計画の見直しに向けた検討を進めています。このたび、農用地利用計画の素案がまとまりましたので公表します。次の公表場所でご覧いただけますので、ご意見やご質問をお伺いします。

### ○公表期間及び時間

平成29年3月13日(月)～3月17日(金) 9時～12時、13時～16時30分

### ○公表場所

松村ビル別館503会議室 横浜市中区住吉町1-13 <横浜住吉町郵便局となり>

問合せ	環境創造局農政推進課	☎045-671-2630	FAX045-664-4425
	北部農政事務所	☎045-948-2477	FAX045-948-2488
	南部農政事務所	☎045-866-8491	FAX045-862-4351

## 第33回全国都市緑化よこはまフェア ～Garden Necklace YOKOHAMA 2017～



未来のバラ園 (みなとガーデン:山下公園)



10,000㎡の花畑 (里山ガーデン)

花と緑の祭典「第33回全国都市緑化よこはまフェア」がいよいよ3月25日(土)から6月4日(日)までの間開催します。

山下公園、日本大通りなど都心臨海部の「みなとガーデン」と、よこはま動物園ズーラシアに隣接する郊外部の「里山ガーデン」をメイン会場とし、テーマフラワーの「サクラ」「チューリップ」「バラ」をはじめとした100万本の花と緑で横浜の街をさらに美しく彩り、訪れる皆さまをおもてなしします。



シンボルキャラクター  
「ガーデンベア」

©ITOON/GN2017

問合せ	第33回全国都市緑化よこはまフェア実行委員会事務局(環境創造局全国都市緑化フェア推進課内)		
	☎045-671-3789	ホームページ	<a href="http://yokohama-fair2017.city.yokohama.lg.jp/">http://yokohama-fair2017.city.yokohama.lg.jp/</a>

### 編集 後記

今期の農業委員の任期(平成29年8月)も残りわずかになりました。この間には、様々な意見をいただき議論しながら多くの案件を処理してきました。

今年は新体制へ移行する年でもあり、農業委員に農地利用最適化推進委員が新たに加わり活動を行います。横浜ならではの、農地利用の最適化を目指し円滑な移行が図れるよう、準備を進めてまいります。